

# 極端な気温が不登校に与える影響

内田真輔（名古屋市立大学） 五由出龍之介（一橋大学）  
中室牧子（慶応義塾大学） 樋口裕城（上智大学）

January 29, 2026

## Abstract

本研究は、極端な気温が小・中学生の不登校に与える影響を定量的に検証する。埼玉県内の公立小・中学校に在籍する児童・生徒のパネルデータを用いて、気温が主に不登校に与える影響に着目しつつ、学力や非認知能力、いじめ、暴力行為といった行動について包括的に分析した。分析の結果、前年に極端な高温日および低温日が増加することで、学校・学年あたりの不登校者数が増加することが明らかになった。不登校の増加理由は、病気や事故などではなく、「無気力・不安」によるものが統計的に有意な要因となっていた。また、高温および低温による不登校者数の増加は、とりわけ中学生で顕著にみられた。極端な高温がもたらす負の影響は学校に設置された空調（冷房）によって一部が相殺される可能性も示唆された。一方、いじめや暴力行為には気温の影響がみられなかった。また、先行研究で気温の負の影響が報告されている学力や非認知能力についてもはっきりとした効果は観察されなかった。これらの結果は、学力テストや調査に参加しない不登校者の増加によって推定結果が過小評価されている可能性を示唆している。<sup>1</sup>

キーワード: 気温、長期的影響、パネルデータ、不登校、無気力・不安

JEL classification: I1, I2, G0

RIETI ディスカッション・ペーパーは、専門論文の形式でまとめられた研究成果を公開し、活発な議論を喚起することを目的としています。論文に述べられている見解は執筆者個人の責任で発表するものであり、所属する組織及び（独）経済産業研究所としての見解を示すものではありません。

<sup>1</sup>本研究は、「機能する EBPM の実現に向けた総合的研究」プロジェクトの一環として行われた。本稿の原案は RIETI のディスカッション・ペーパー検討会で発表を行ったものである。川口大司プログラムディレクター、大竹文雄ファカルティフェローを始め、検討会参加者からの有益なコメントに感謝したい。本研究の実施にあたり、科学技術研究費（基盤 A）の「新型コロナウイルスが子供たちの人的資本の蓄積にもたらした影響」（研究代表者：中室牧子、課題番号 22H00064）からの支援を受けた。